

平成27年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	串間市コミュニティバス
所在地	串間市大字西方5550番地 串間市大字西方5726番地1
指定管理者	名 称 宮交タクシー株式会社 代表者 代表取締役社長 川端史敏 住 所 宮崎市新栄町91番地
モニタリングの実施方針・方法等	毎月、業務報告書の提出をうけ、モニタリングを行った。また、サービスの質については、平成27年6月18日から6月24日において施設（串間市コミュニティバス）に乗車し、利用客に対してアンケート調査を行った。
担当課 (問い合わせ先)	串間市役所 総合政策課 電話 0987-72-1111 (内線334)

■モニタリングの総合コメント

串間市コミュニティバスの運行については、串間市公共交通計画に則った運行を行うことにより、交通弱者にとって必要不可欠な公共交通機関として運行維持するとともに、病院の通院や市内での買い物のサポートなど住民サービスが提供できている。また、毎月開催している連絡調整会議を通じて、市と指定管理者間の意思疎通を図ることができた。

■今後の業務改善に向けた考え方

平成27年度の乗者数は26,584人と平成26年度に比べて乗者数が1,087人増加しているが、乗車計画値（計画30,000人）との比較では89%と目標値に達していない状況である。今後も市民ニーズにあった利便性の高い効率的な運行サービスを目指す必要があるとともに、さらなる利用促進について指定管理者と市が協力して進めていく必要がある。

■基本的な考え方（施設の性格・目的との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮）

合目的性・公平性・効果性

串間市公共交通計画により、市内の交通空白地域をカバーし、市民生活に必要不可欠な公共交通機関として維持し、高齢者の通院や生活用品の買い物のサポートなど住民サービスが提供できている。

■業務内容

・機能性・独創性（事業への具体的な取り組み方）

自主事業としては、車輛の空きスペースに広告を掲載するなど収益の確保に努めており、今後さらにアイデアを練って利用促進及び収益の確保に努めていただきたい。

・責任性・実効性（施設の運営体制や組織）

組織としての運営体制が定めてあり、また、運行管理者及び整備管理者が保有資格と共に定めてある。乗務員については、大型二種免許保有者と、大型一種免許保有者については市町村有償運送等運転者講習受講者である。物的施設としても日々維持管理できている。市と指定管理者間の意思疎通も連絡調整会議等を通じて十分なされている。

・明瞭性・規律性（適正な事務や経理）

料金箱の確実な管理と報告により、収入、乗車人数、日報記入等が行われており、毎月の業務報告書が確実に提出されている。

・安全性（安全管理、緊急時等の対応）

運行管理者による乗務前後の対面点呼を行い、天候や道路状況の確認、アルコールチェックを行っている。さらに、毎月1・10・20・30は事故0の日と定め、所長による点呼を行い、事故防止に取り組んでいる。また、災害・事故など緊急時の連絡体制が定めてあり、事務所に掲示してある。

今回、平成27年6月に発生した事故においても、早急に市や関係機関と連絡等を取りながら対応をしたところであり、事故を受けての対策として、運転以外の操作は必ず停車してから行うことなどの周知徹底をするとともに、乗務員教育としてドライブレコーダーの設置などを行っている。

・社会性（環境等への配慮）

アイドリング時間の短縮や冷暖房の効率的な使用方法、急発進・急停止の防止、エンジンプレーキの効果的な活用方法等を指導し、環境に配慮するとともに燃費の向上に努めている。

■事業収支

経済性

平成27年度の収支は、収入の27,847,680円に対し、支出が25,460,773円となっており、収入（指定管理料・利用料金収入）が運行経費を2,386,907円上回った。「串間市コミュニティバスの運行管理に関する基本協定書」第27条及び事業計画に基づき、指定管理料の返還はされなかった。

■団体の経営状態

経営の健全性

本県では、観光や雇用等の一部には明るい動きがあったものの、消費の拡大にまでは至らず、力強さには欠ける状況で推移しており、タクシー業界においても県下全体では、輸送回数や運送収入ともに前年度を下回る状況である。

そのような中、平成26年4月のタクシー特措法による同一地域同一運賃の効果が表れ始めたことや各種イベント等の開催に伴う需要増加への配車対応の強化、ジャンボタクシーでの企業従業員送迎契約の新規獲得等により、輸送回数、受電件数、運送収入ともに前年を超える実績を残した。

また、スマートフォン配車アプリの宣伝強化やプレミアムカードの配布による新規顧客の獲得を図るとともに、2月にはトヨタアルファードハイブリッド車を導入し、専属乗務員3名の接遇教育・乗務訓練を実施し、国内・外のVIP対応車両として行政機関・観光関係機関はじめ県内企業や旅行会社へのセールスを実施し、同車両によるシーガイア空港送迎プランも設定する等、新規需要の創造にも努めた。

業務委託については、昨年に引き続き、宮崎市スクールバス・タクシー運行委託契約、県内支援学校4校の輸送委託契約、高千穂町・高鍋町・串間市・延岡市・新富町・日南市南郷町のコミュニティバス運行を行っていることに加え、新規に高千穂町(岩戸線・浅ヶ部線)、延岡市(北川マイクロ)のコミュニティバスを獲得した。